

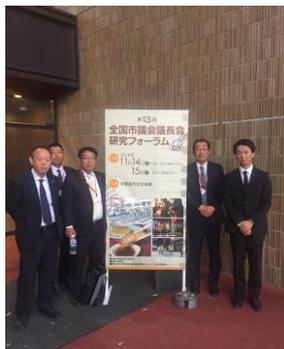
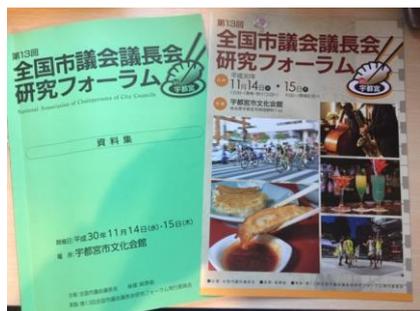
# 第13回全国市議会議長会研究フォーラム参加報告書

平成30年12月3日

貝塚市議会議長 様

(市民ネット貝塚)

阪口 勇  
籾内 留治  
平岩 征樹  
川岸 貞利  
池尻 平和



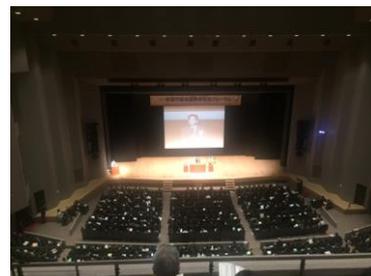
【開催日】 平成30年11月14日・15日

【場 所】 宇都宮市民文化会館

◇第1日：11月14日 13:00～

## 第1部、基調講演「共生社会と地方自治」

宮本 太郎 氏 (中央大学法学部教授)



○地域ですすむ重量挙げ化と漏斗化 (2040年問題)

重量挙げ化－ 現役世代：高齢化世代の比率が 1.5 : 1 実質 0.5 : 1 に

漏 斗 化－ 若年層が東京圏に流出

2040年問題

地方圏－高齢化のピークを過ぎるが現役世代がさらなる減少

東京圏－現役世代の流入も人口規模が維持するが出生率低く、さらなる高齢化

「ピンチをチャンスに」「チャンスを実際に」

人口減少社会がもたらすチャンス

社会的弱者を認定し保護する福祉から皆を元気にする包括支援と活躍の場づくり、新しいつながりづくり

・困窮と孤立を越えて「誰もが人材」の街へ

・定年後男性の地域デビュー支援でご当地を「生涯活躍のまち」へ

○チャンスを実現化するために政治の役割が大きい

・鹿児島市のナガヤタワー

新しい居住と家族縁・高齢者と発達障害の子ども達と学生が支え合う

・京都市すまい生活支援事業

空き家が増大するなかで、ケアと居住をつなげる地縁づくり

・シェア金沢（社会福祉法人仏子園）

「共生＝ごちゃまぜ」の地縁づくり

などの取組みの紹介があり、みんなの居場所づくりと人の縁を再構築していくことの必要性とそのために「自治体は何をすべきか」について講演されました。「ずっと出番のあるまち」「必要縁でつながるまち」がキーワードであり、地域の活性化、すみやすい街づくりに「定年後の男性の地域デビュー」が大切、その支援が大事であるということに強く関心を持ちました。

## 第2部 パネルディスカッション

### 「議会と住民の関係について」

#### ■コーディネーター

江藤 俊昭 氏（山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授）

#### ■パネリスト

今井 照 氏（公益財団法人地方自治総合研究所主任研究員）

本田 節 氏（有限会社ひまわり亭代表取締役

食・農・人総合研究所 リュウキンカの郷主宰）

神田 誠司 氏（朝日新聞大阪本社地域報道部記者）

小林 紀夫 氏（宇都宮市議会議長）

まず初めに、コーディネーターの江藤氏より「議会と住民の関係について」問題提起が行われパネルディスカッションが始まりました。



最初は、今井 照氏が3児の母で37歳の時1年間の癌との闘病生活を経験し、それをきっかけにより深く食・農・命について考えるようになり、「ひまわりグループ」の結成に至ったこと。そして女子力（主婦力）を活かした地域づくりからコミュニティビジネスへの活動報告がありました。

続いて、今井 照氏から、「市」における議会と住民との関係について現状分析の話がありました。

○行政への期待は高いが議員・議会への期待は低い（都市問題の多様性）

○「市」の苦境、「分権」の名を借りた業務移譲や国からの責任転換によって行政が肥大化（政治上の非決定が進む←国政に対して）

○住民と国政のはざままで「市（議会）」立ち位置が揺れる。

課題一自治体議会が議論し選択できる幅が小さくなっている。

【議会への問いかけ】

- ・市民活動からの陳情に行政擁護し議会の自らの権限放棄がされていないか。
- ・議会として市民活動と協力できる余地があるのではないか。

続いて3番手のパネラーとして小林 紀夫氏からは、現職の議員（議長）として、議員と住民との距離を近づける為に、大選挙区（市域全体選挙区）を中選挙区（市をいくつかの選挙区に割る）にすることも必要ではと語られました。

最後に、神田 誠司氏からは、「議会に魅力がない」、目に見える成果を上げて市民に訴える。意見交換会の実施や議会だよりの充実などからでも取り組むべきであると話されました。

コーディネーターの江藤氏が「議会改革について」などいくつか再度テーマを出して時間がない中で2回目のパネラーの話があり、江藤氏がまとめを行った後、会場からの質問を受けました。

その一つは、「投票率が下がる一方で、公職選挙法（個別訪問禁止・自転車で選挙活動制限など）を変えないと、住民にしっかりと訴えができない」という質問があり、神田氏から「公職選挙法の規制がありすぎるのは確かに問題だが、議会改革などをしっかり行い、住民に届けなくてはいけない」と答えられました。

特に印象に残ったのは、神田氏の「議会、議員は話すことより聞くことだ、市民の声を」と訴えられたことで、議会として市民の声を聞く場や制度を作るべきだと強く感じました。

◇第2日：11月15日 9:00～

課題討議

「議会と住民の関係について」

■コーディネーター

江藤 俊昭 氏（山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授）

■事例報告者

桑田 鉄男 氏（久慈市議会副議長）

伊藤 健太郎 氏（新潟市議会議員・新潟市議会主権者

教育推進プロジェクトチーム）

ビアンキ アンソニー 氏（犬山市議会議長）

道法 知江 氏（竹原市議会議長）



第1日目の「パネルディスカッション」を受けて、「議会と住民の関係について」の同じテーマで、議会の取組みなどの4人の事例報告者から、住民の声をどう聴き議会と住民との関係づくりの議会への改革が報告されました。

まず初めに、コーディネーターの江藤氏より「議員のなり手不足」「住民との密接な取組み方」「投票率の低下の対策」などの視点で、「地域の変動に議会はどうかかわったか?」「議会改革の最初の一步は?」と言うテーマが出され、4人からの事例報告に移りました。

久慈市議会の桑田副議長からは、前文方言の「議会じえじえ基本条例」、住民と議会が協働する場「かだつて会議」、議長のほか常任委員長の所信表明、通年会期制の導入など多くの議会改革の報告がありました。特に印象深かったのは「かだつて会議」の取組みでした。行っていた議会報告会が「参加者が集まらない・参加者が年配に偏る・特定の人だけが発言し他の人が発言できない・議会や行政の不満や陳情に終始する」という状態から逆転の発想で設計し、**市民と議会が話し合う場**に変えていった。「議会が市民の意見を聴く・議会と市民または市民同士で意見を交わす場」にするため、ワールド・カフェ方式（対話方法）、ファシリテーション（対話スキル）を行い、「未来に向かってどんな町にしたいか、そのための課題は何なのか」市民と議会が垣根を超え、雰囲気よく一緒に話し合う場に作りあげ、参加者も学生・主婦層・高齢者と幅広い人が参加。

「かだつて会議」の参加者から議員になった人もいたとのことでした。

新潟市議会の伊藤議員からは、「議会による主権者教育の取組みについて」事例報告でした。市議会に対する市民の関心の低さを変える取組みとして、市内の**中学校・高校を対象に①模擬市議会**（合意形成のロールプレイング）、**②地域課題の解決に向けたワークショップ**、**③市議会の傍聴・見学**、**④議員との交流・意見交換**を開催しているというすばらしい報告でした。

驚いたのが、このプロジェクト開始までの経緯で、平成27年一般選挙で初当選した議員13名が、若者向けに議会を知ってもらい取組みをしたいと「議員として、学校等と協働で主権者教育を進められないか」と発案したことに、当時の議長が強いリーダーシップのもと、市議会として対応することに決定して始まったということでした。

実績としてこの授業を受けた学生に取ったアンケートでは、市議会への関心について、「大いに関心があった」と「少し関心があった」と答えた生徒は19%だったのが、「大いに関心を持てた」と「少し関心を持った」と答えた生徒が92%に上ったとのことでした。

犬山市議会のアンソニー議長からは、「市民参加」議会の機能向上の取組みについての事例報告がありました。外国人だったアンソニー氏は、地域活動や議会・行政への要望活動を行ってきたが納得いく動きが感じられない中、日本国籍を得たことを契機に市議会議員に立候補し当選。

「日本の議会は受け身すぎで、行政とのバランスが良くなく、十分機能していない。その原因は議会にあり、もっと積極的にならないといけない。市民にとってより役立つ機関になるように議会は与えられた権限を最大限に行使しなければいけない。」と感じていたアンソニー氏は、「議員間討議の推進」「議会の政策立案と提言力の向上」「市民参加」の3点が不可欠と考え働きかけた。

そして、犬山市議会として①**議員間討議の促進の取組み**として、**全員協議会を設置**し「一般質問及び上程議案の内容等を議員間討議する」そして、②委員会においても**議員間討議をおこない意見の集約、提案へつなげる**。③**市民参加の取組み**として「**女性議会**」（公募でいちにち女性議員を募集 10 名参加）、「**市民フリースピーチ**」（定例会開催期間に市民が議場で市政全般に関して 5 分間自由に発言ができる。市民からの意見は全員協議会で議員間討議を行い申入れなどのアクションをとる）などの議会改革を行ったとのこと。

竹原市議会の道法議長からは、「女性と議会との関係～お互いに尊重し認め合う議会に～」について報告がありました。

まず妻として母としてそして女性として、「変化しない女性軽視の社会を変えたい」「困っている母親たちの本当の声を届けたい」と政治の世界に飛び込むことにした経緯について生い立ちからの説明がありました。そして、議員 11 年目で議長に就任し、議会改革に遅れをとっていた竹原市議会を「議会の見える化情報発信の推進」という改革から始め、女性の議運委員長と二人三脚で進めてきたと話された。

意見の相違があってもお互いに認め合い、周囲の男性議員もいつも助けてくれたとのことで、経験から「政治こそ女性の力が必要」「政治家は目的でなく手段であり、生活者の生の声を広く受け止め政策に生かす」と訴えました。そして女性の政治参画には「女性特有の生命を慈しみ育む心」での暮らしの身近な政策提言の力があり、男性議員の理解と支えで、「お互いが尊重し認め合う議会に」と締めくくられました。

4 つの議会改革の事例報告を聞き、まず感じたことは「議会と住民との関係について、もっと身近に、もっと関心を持ってもらえる議会へ」という方向を向いた議会改革であるという点でした。そういった意味では、これまでの議会運営に対して、疑問や新しい発想を訴える新人議員の声に耳を傾け、議会改革に進んだ新潟市議会や犬山市議会の姿勢に感銘を受けました。

住民の声を議会として聞く場をつくり、議会と住民との距離を縮め、市民がより議会への関心と信頼を深め、住民自治としての政治への参画への取組みをわが貝塚市議会でも行っていかなければならないと決意した研修となりました。